



雨水利用を進める全国市民の会

会長 辰濃 和男

〒131-0032 東京都墨田区東向島1-8-1

TEL: 03-3611-0573

FAX: 03-3611-0574

H.P: <http://www.network.sumida.tokyo.jp/amamizu/>

8月5日(土)・2000年雨水フェア開催

都市型洪水防止策としての 雨水利用の有効性を考える

2000年雨水フェアの

実行委員会に参加してください

昨年7月、新宿区の住宅街において、都市型洪水で地下倉庫が水没し、様子を見にエレベーターで地下に降りた住民が水死するという痛ましい事故が起きました。この3週間ほど前にも、福岡市の博多駅東の地下ビル街において、やはり逃げ遅れた女性が水死するという信じられない事故が起きています。

東京の下水道は、時間降雨強度が50mmで設計されてきましたが、それは、雨が50%近く地下に浸透することが前提でした。現在の東京の区部ではコンクリート、アスファルト化が進み、不浸透率が80%を越えてしまいました。これでは、下水が逆流するのは、当然の結果といえるでしょう。今回起きた2件の水死事故の背景には、想像を絶する集中豪雨、都市型洪水に無防備な地下開発といった要因もありますが、本質は、やはり、雨水を徹底的に排除してきた都市構造にあるといえるのではないでしょうか。今や、東京のみならず、どこの都市もコンクリート・アスファルト化が急速に進んでいます。これからも悲惨な事故は、起きるのではないかでしょうか。

雨水利用によってビルや住宅の屋根に降った雨水を貯留したり、敷地に降った雨水を地下に浸透させたりすることは、これから都市の水防対策の基本となるに違いありません。今年の雨水フェアでは、「都市型洪水防止策としての雨水利用の有効性」を検証してみようと思います。これまで雨水利用を進める全国市民の会では、こうしたテーマできちんと議論をしたことありません。会議を成功させるには、関連資料の収集や会員以外の専門家の方の力を借りることも必要で、たくさんの会員の協力が必要です。幹事会では、そのため、実行委員会をつくり、その中で企画をさらに進めてゆくことになりました。会員各位の積極的な参加をお願いします。

連絡は、ファックスで事務局までお願いします。

(FAX: 03-3611-0574)

事務局長 村瀬 誠

新たな事故を防ぐためにー^{東京都西落合・都市型洪水の現場を訪ねて}

■ 広報委員 小久保 京子

「市民の会」では、平成12年1月29日（土）、参加者20名で現地調査を行ないました。妙法寺川と神田川にはさまれた落合中央公園から出発し、都市型洪水による死亡事故が起きた家のある西落合3丁目へ向かいました。

事故が起きたのは、記録的な集中豪雨のあった平成11年7月21日です。自宅地下室の様子を見に行った男性が、地下室につながる外階段などから流れ込んだ雨水によって溺れてしまいました。救助隊が到着した時には、地下室は天井まで完全に水没していたということです。地下室につながる建物内のエレベーターは動かなくなっていました。外階段へ通じるドアまで泳いで脱出しようとしても、急流のためドアも開かなかったとみられています。

事故の起きた現場は、高台に囲まれ、すり鉢状に低くなっています。現場周辺の道路は、一時ひざ上まで冠水しました。

現場の向かいのマンションの理事長さんたち数人からお話をうかがうことができました。それによると、昭和52年に建ってから、このマンションは3回洪水の被害にあったということです。マンションの建設に際しては、日照の問題もあり、高さなどについて近隣住民の反対がおこり、道路より掘り下げて建設したため、被害を受けやすい状況にありました。昨年、7月の豪雨による被害は、1階の床上浸水と自家用車の浸水で、畳も車もすべて買い替えざるを得ませんでした。

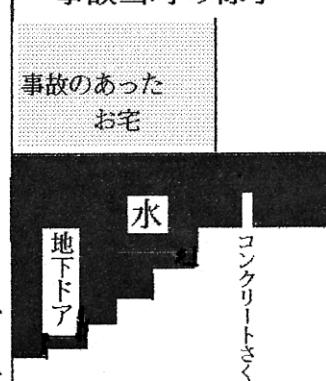
今、すぐ近くに新たにマンションを建設する計画がもちあがっています。すり鉢状に低くなった一帯で、下水管を共有することになれば、被害はさらに拡大されることが予想されます。

この水死事故を受けて、行政に対して改善を求める住民運動などは起こらないのか、という質問には「運動にはならない」とい

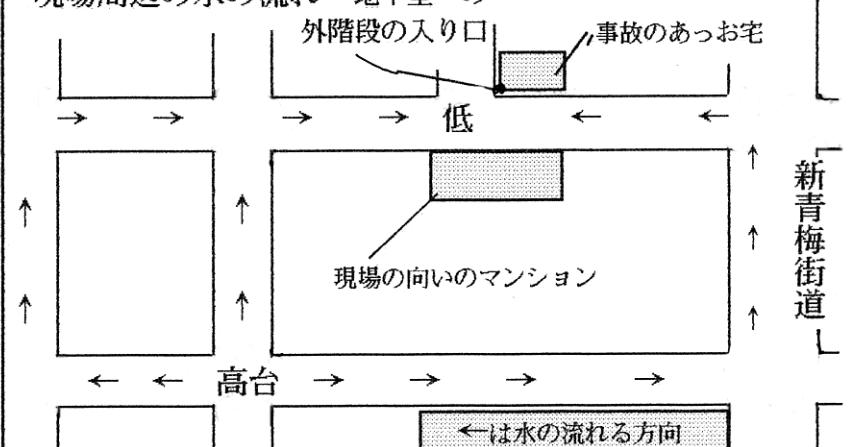
う答えが返ってきました。近所付き合いのあり方、対立や無関心などが原因のようで、身近に起きた事故に共通の危機感を持って向き合うことの難しさを感じました。

振り返ってみれば、この事故は起こるべくして起きたということがわかります。この事故現場と似た条件の建物は、都内だけでも数多くあることでしょう。2度と繰り返さないために、今、東京都が対策に乗り出しています。「市民の会」では、この問題を8月の雨水フェアで取り上げる予定です。

事故当時の様子



現場周辺の水の流れ 地下室への



都市型洪水に関する

行政の緊急的な浸水対策

東京都の雨水整備クイックライン

平成11年の6月と7月に起きた福岡市と東京新宿西落合の地下室水害を受けて、建設省、国土庁、運輸省、消防庁は、(旧)地下の豪雨、水害の危険性周知、啓発(用)地下空間管理者への洪水情報の的確、迅速な伝達(避難体制の確立)水の流入防止など被害軽減対策の促進、といった緊急対策を打ち出しました。(平成11年8月30日)

これを受け、東京都下水道局では、緊急重点雨水対策「雨水整備クイックプラン」を策定しました。(平成12年3月15日) その概要是、

(1)重点地区25地区、小規模対応箇所77箇所、地下街等対策地区4地区、ポンプ対策地区9地区に実施

(2)浸水原因に応じて、短期的対策を緊急に

実施し、迅速かつ効果的に局所的集中豪雨による浸水被害を軽減する

(3)雨水浸透、一時貯留、複数ルートによるネットワーク放流等の新たな雨水整備手法を実施

(4)管渠内の水位計や光ファイバーケーブルの活用による情報提供

(5)道路雨水施設(街渠樹等)の充実をさせ、管理者である区との連携を図る

となっています。しかしながら、その内容はというと、緊急的な対策として位置づけた以外、これといって目新しい施策は見受けられません。従来の手法や大掛りな手法の組み合わせでしかなく、道路に出てきた雨水をどうするかの視点から抜け出ています。

福島県伊達町に見る治水対策

宅地内に降った雨水は宅地内で、道路は道路内で管理すべきだとして、低地区的治水対策のみならず、利水環境の改善と住民参加による維持管理を打ち出した伊達町の事例を紹介します。

伊達町の上大川地域は、1950年代以降、低地の地形もあって、一部に浸水被害が頻発するようになりました。そこで、浸透性の高い地盤などの特性をも踏まえて、水や緑の循環のように、人もまたふるさとに帰る、そんなふるさとづくり「ふるさと回帰泉」整備事業を実施するにいたりました。具体的な手法として、

- (1) 歩道と車道を分離して設けた、せせらぎ下部の地下浸透トレンチと、民家の庭に設けた窪地による浸透・貯留
- (2) 宅地周囲に廻らした30~50cmの石積み壁による溝状の窪地と、低木植生による景観の創出
- (3) 宅地浸透樹と宅地内トレンチ：宅地内の水は宅地で処理
- (4) 道路の透水性舗装 (5) 生け垣再生、鎮守の森保存
- (6) 管理組合の設立：自治会にとどまらず、法人を設立して自主管理を実施

住民の全員参加による計画づくりから基本コンセプトを抽出し、地域と行政、コンサルタントが知恵を出しあって事業を進めています。

伊達町では、また「浸透マップ」を作成中であり、雨水涵養効果(治水、環境)、経年変化を検証すると共に、水環境の保全と再生のあり方について調査研究を重ね、環境共生事業の実践していくことをめざしています。(雨水技術資料Vol.27伊達町21世紀街づくり「結いのある街」より)

シリーズ

家庭用雨水タンクへの 助成制度

その4 「助成制度は、どのくらい利用されてるの？」

◆ 市川 龍 (情報部会所属)

雨水タンクの助成制度を紹介したシリーズの最後は、この助成制度を市民はいかに利用しているのか、利用状況を見ていただきたいと思います。

昨年、情報部会が調査した結果を表-4にまとめてみました。(表中の「?」は回答がなかったことを、「一」は助成制度がまだ整備されていないことを意味しています。)

数字で単純に評価することはできません。しかし、行政と市民との「認識の差」を感じることができます。助成制度を整備した先進的な地方自治体を、私たち市民団体がちゃんとバックアップする必要のあることを表は示唆しています。

なお、この資料を収集・整理して以降、次の自治体が雨水タンクへの助成制度を開始しました。新潟市、上越市、草加市、江戸川区、磐田市、三島市、松山市、那霸市などです。今後もこうした地方自治体が増えることは確実です。しかし、いくら助成制度があっても、利用されなければ予算はだんだん削られます。しまいには、ただ存在するだけのものになってしまいます。

当会が「全国」と名乗るからには、キャラバン隊などを組織して、全国的な市民活動を展開していかなければならないでしょう。

表-4 雨水利用に対する助成制度の利用状況 (当会情報部会調べ)

(貯) は製品化された雨水タンク、(浄) は不要浄化槽転用の雨水タンク、
(小)・(中)・(大) は雨水タンクの規模を表しています。

団体名	年度				
	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	
埼玉県	越谷市	(浄) 36	(浄) 33	(浄) 12	(浄) 15
	志木市	(貯) 2 (浄) 0	(貯) 2 (浄) 0	(貯) 3 (浄) 0	(貯) 2 (浄) 0
	川口市	-	(貯) 9 (浄) 5	(貯) 12 (浄) 12	(貯) 25 (浄) 1
	吉川市	-	?	?	?
	宮代町	-	?	?	?
	桶川市	-	(浄) 1	(浄) 8	(浄) 5
	所沢市	-	-	(貯) 28	(貯) 30
	川越市	-	-	?	?
千葉県	千葉市	-	-	-	(浄) 2
東京都	多摩市	(貯) 44	(貯) 19	(貯) 9	(貯) 5
	調布市	-	(貯) 35	(貯) 17	(貯) 5 + α

表-4 雨水利用に対する助成制度の利用状況（当会情報部会調べ）

団体名	年 度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
東京都	墨田区	(小) 11 (中) 0 (大) 1	(小) 32 (中) 1 (大) 2	(小) 32 (中) 0 (大) 1	(小) 27 (中) 1 (大) 1
	葛飾区	-	-	(貯) 62	(貯) 65
	台東区	-	(貯) 9	(貯) 11	(貯) 8
	三鷹市	-	-	(貯) 18	(貯) 20
神奈川県	藤沢市	(淨) 10	(淨) 54	(淨) 43	(淨) 45
	南足柄市	(淨) 7	(淨) 12	(淨) 11	(淨) 6
	鎌倉市	(淨) 9	(淨) 15	(貯) 8 (淨) 11	(貯) 16 (淨) 11
	厚木市	-	-	-	(貯) 3
愛知県	豊田市	(淨) 39	(貯) 0 (淨) 39	(貯) 10 (淨) 50	(貯) 7 (淨) 40
	蒲郡市	-	-	(淨) 7	(淨) 8
岡山県	倉敷市	-	-	-	?
香川県	高松市	-	-	(小) 50 (中・大) 6 (淨) 13	(小) 34 (中・大) 16 (淨) 23
福岡県	筑紫野市	-	-	-	(貯) 1
鹿児島県	鹿児島市	-	-	(貯) 81	(貯) 76

2000年総会の成功に向けて

5月下旬に、2000年・雨水利用を進める全国市民の会の総会を開きます。2000年は、「雨の事典」の出版、2001年雨暦の制作、2000年雨水フェアの開催、中国およびバングラデシュにおける雨水利用の国際協力・支援事業の推進、国内外の雨水利用に関する情報の収集と発信の強化、国際雨水センターに向けたホームページの開設、雨水の環境教育の充実、会員向けの「雨水利用セミナー」の充実など、さまざまな事業が計画されています。

今後、総会に向け、部会や各プロジェクトでは、一齊

に昨年の活動の総括と、新年度の方針づくりが行われます。21世紀にふさわしい、夢のある事業計画を練り上げていきましょう。また、ひとりでも多くの会員が、会の活動に参加できるよう、これから会の活動を魅力あるものにしていくために、会員の英知を結集していきたいと思います。

部会やプロジェクトに参加されていない会員の皆さんも、総会に向け、ぜひ、これから会の活動に関して、ご意見をお寄せください。

FAX 03-3611-0574

事務局長 村瀬 誠

台湾の雨水利用

2000年2月27日から3月8日の11日間、台湾の台北、台中、高雄の3都市で雨水利用の講座を受け持つことができた。「村瀬誠さんとの2人旅」で、村瀬さんが都市の雨水利用の意義や概要、補助制度について、日本の現状から詳細な報告を行った。私は、もう少し具体的な事例や設計の手法について話を進めた。

3都市での受講生の延べ人数は200人程度で、主に建築士で設計を本業としている方々である。特に台北の講義では、現在設計している、台北市の「ゴミの資源回収セ

◆佐藤 清

ンター」に雨水利用の導入を検討した。具体的な事例をもとにディスカッション形式で講座を進めることができ、有意義であった。

台湾での講座は、私は2回目（村瀬さんは3回目）であるが、前回に比べて熱の入り方は確実に上がってきている。将来、それも近い年月の間に、台湾の雨水利用が市民権を得ることは間違いないであろう。

最後に、受講生の熱心な態度は我が国が学ぶこと「台」である。

「雨の事典」と共に、はや2年

「ふうーっ」

■制作チーム 高橋 朝子

雨が気持ち良い季節になった。一雨ごとに植物の枝や葉が伸び、色とりどりの花が雨しづくを転がせて揺れる。田植えに備えて農業用水の水量が増すと、カエルたちのお出まし。ゲコゲコの声も心地よい。湿気とともにムンムンと生き物たちの匂いが立ち込める。

最近、雨に敏感になった。毎朝、新聞で無意識に「雨」という字を探している自分を見つける。雨にぬれて気にするより、雨の日の風情を楽しんでいる。モザンビークやベネズエラの大洪水をテレビで見て、違った面をもつ雨の残酷さに心が痛んだ。「雨の事典」を書き始める前より、雨がとても近くなつたような気がする。

チームが結成され、資料集めで1年、原稿を書き出して1年、もう2年あまりの時間を費やしてきた。合宿も今度の5月の連休中のを入れて3回になる。面白い話も集まった。異常気象の話、雨大好き人間の話、演歌と雨の話、世界の雨と暮らし、沖縄戦と雨の話、雨の神話の話、雨乞いの話、原初の雨の話、雨の日の生物アラカルト、雨水利用Q&Aなど、そして雨水利用から雨水循環型社会を展望す

る。イラストはページごとに入れて、分りやすく、面白くしたい。

専門家でもない素人が図書館通いや現地調査で苦労して集めたものであるが、本当に盛りだくさんで、間違はないか、どこまでオリジナリティを打ち出せるか、約束の期限に間に合うかなど、つい不安がつのる。しかし、日本人は雨に恵まれた雨民族、そして私たち雨水利用を進める全国市民の会が、雨のことを一番よく知っていたい。その会が「雨の事典」を出すのに一番ふさわしいではないか、と自負し、自らを励ましながら、これから最後の仕上げにとりかかっていきたい。



◆ 墨田区がICLEI・国際自治体環境賞に入賞

先だってG8に関連して地球温暖化対策の「優良事例」に選ばれた墨田区が、またまた貴重な国際的な賞を受けました。210件も応募があった中で、ICLEI（国際環境自治体協議会）の国際環境自治体賞の水部門に入賞です。墨田区以外は中国とホンジュラスの自治体が受賞しました。

最近、雨水利用は日本ではかなり知られるようになつたと感じますが、国際的にも評価され、励みになります。世界に広がらなければ

「雨水利用は地球を救う」ことにはなりませんものね。

おめでとうございます。

* *

◆ 「村瀬さんは…？」 「おらん、だよ」

3月17日から22日、村瀬事務局長はオランダのハーグで開催された「世界水フォーラム」でドイツのケニヒさんと共に、「都市の雨水利用」について招待講演をしました。都市と農村の雨水利用がテーマの分科会で、出席者は100人を超す盛況だったそうです。

その後、ヨーロッパの雨水利用グループのミーティングにも参加。

来年9月にドイツで開かれる「雨水利用の国際会議」で、雨水の水質問題を取り上げることが決定したそうです。

9月のドイツ。きれいでしょうね。今から貯金とドイツ語に励みませんか。

行くのは、どこのドイツか、じゃなくて（失礼）、ドイツのどこか、詳細をまたの機会にお知らせいたします。

* *

◆ 「市民の会」のホームページ、 英語版、まもなく完成

国際雨水センターの設立をめざす「市民の会」として、どうしても必要な英語版ホームページです。松本正毅さんとケイト・ストロネルさんのご努力で、もうすぐ開設されます。

◆ 「雨の事典」制作チーム 5月の連休にも合宿

萩原朔太郎が「5月の縁は私の心を貴族にする」と歌った美しい季節。そのゴールデンウィークに、ひたすら家にこもってあぶら汗を流さない、「事典」のメンバーはほんの一握りでしょう。

今、「雨の事典」制作チームは慣れない原稿書きに呻吟しています。「楽しく・ためになる原稿を」と志は高く、シロウトもクロウト（頼りになる数人）もがんばっています。連休も終わる5月の6日7日、東京渋谷区の銀杏荘で、合宿があります。

* *

◆ 移転のお知らせ

墨田区役所の、村瀬事務局長が在籍する環境清掃部環境保全課が、これまでの5階から14階へ移転しました。さらに、ファックス番号も変わりました。03-5608-6934です。電話番号は以前と同じです。

* *

◆ 2001年版「雨暦」制作チーム、始動

毎日おつき合いしている「雨暦」。既に、来年の企画を話し合っています。公募入選作品の写真やいつものエッセイのほか、「市民の会」の昨年度の活動の成果も盛り込まれる予定です。

2000年版「雨暦」は残部がありますが、収支は少しですが黒字とのことです。





ジョン・ゴー
ルドさん
国際雨水資源化学会・幹事

昨年、イギリスの出版社から「Rainwater Catchment Systems for Domestic Supply」(家庭の水供給のための雨水利用)という本を出版されました。エリック・ニッセン・ピーターセンさんと共に著書です。

本書では、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカなど、世界の雨水利用の豊富な実例が、そのバックグラウンドに触れながら、雨水利用のデザインと合わせて、紹介されています。世界の雨水利用のコンタクト先、文献も載っていて、私たちの活動にもとても役に立ちそうです。

ジョンさんといえば、1994年の雨水利用東京国際会議で、「衛生的な水はもちろん、不衛生な水さえわずかしか得られない人たちがたくさんいる。これを雨水利用でなんとかしなくては」と、熱弁を振るった人です。ご

記憶の方も多いのではないでしょうか。

ジョンさんと雨水の出会いは1982年。ボツワナ(アフリカ)での雨水研究に始まったそうです。その後、アフリカ、アジアの雨水利用へとフィールドを広げてきました。彼は、長く国際雨水資源化学会の事務局長を務め、大の日本びいきです。

奥様のえりこさんとの間に生まれたお子さんの名前は、綾子ちゃん。お父さんは日本語はだめだけれど、綾子ちゃんはとても上手だとか。

「ジョンの雨水に対する熱心さは、休暇旅行にも機会があれば雨水タンク訪問を組み込むほどで、私には同じに見えるタンクの写真を何枚も撮ったものでした」とは、えりこさんの言。現在、家族と共にニュージーランド在住。

(村)

事務局だより 田中 清子

くれないの二尺のびたる薔薇の芽の

針やわらかに春雨の降る (子規)

桜が散った東京は、日毎に新緑を増してきました。「桜散らしの雨」から「木の芽起こしの雨」と呼び名も変わって、ひと雨毎に野も山も緑に染まってゆく季節です。

春の天気は3~4日の周期でめまぐるしく変わり、晴天は長続きしない代りに、降雨は期待を裏切れません。種まきや苗の植え付けなど、稻作の準備に入る農家にとって、この時期の雨は命綱とも言えるでしょう。

縄文時代から嘗々と大地を耕し、食糧を生産し続けて来られたのも、豊かな降雨に恵まれていたからに他なりません。

『水不足が世界を脅かす』(家の光協会)を最近読んで、こうした自然条件が必ずしも保障されるわけではない、と危機感を抱きました。「21世紀は水戦争」という警告の言葉は、私たちの座右の銘にしてはどうでしょうか。

新年度に入って、今年の活動テーマが話し合われています。現時点で私たちは何をやりたいのか、社会のためにどんな貢献が出来るかについて考えて、21世紀への橋渡しをする総会方針を決めましょう。

では、総会でお会いしましょう。

